

学園テーマ「東海医療学園のブランド力を高める！」

重点目標

- I. 魅力ある学校づくりの推進
- II. 地域に貢献し、愛される学園を目指す
- III. 学園の運営基盤を強化する

評価 3: 優れている 2: 適切 1: 改善が必要 として委員による評価の平均値を記載

評価項目	成果と課題	学校関係者評価および次年度の取り組み	
1. 教育理念・目的 ・人材育成像	学校案内、ホームページ及び学生便覧等において、教育理念・人材育成像、さらにはアドミッション、カリキュラム、ディプロマの各ポリシーを学校の内外に向けて明示し、理解に努めた。	2.8	教育理念、人材育成像、各ポリシーが明確に示されている。今後、さらに学園内における共通理解を図り、また、外部に対する発信に努めることを望む。
2. 学校運営	学園テーマ、重点目標達成に向けて基本方針を定めるとともに学校経営計画を立案。全体会議等を通じて教職員の共通理解に努め、概ね計画どおり業務執行がなされた。諸規則が整備され、学校運営会議等により意思決定がなされている。また、諸規程の見直し、校務分掌の明確化・業務の効率化に努め、教育活動に関する情報公開も適切に実施した。	2.8	学園の進むべき方向や果たすべき使命について、教職員間で共通理解に努めつつ、計画の実行に努めている。 業務が多様化する中、教職員のライフワークバランスに配慮し、業務の効率化に向けて一層の努力を求めたい。
3. 教育活動	1) カリキュラム 教育課程編成委員会の意見を踏まえ、カリキュラムの検討を行った。当年度は12回のカリキュラム会議を実施、新カリキュラムの学習内容を中心に検討を行った。 新入生から新カリキュラムに基づく学習が行われ、臨床実習の一環として、近隣の介護老人福祉施設などの見学を実施した。 2) 分かりやすい授業への取り組み 教員による自己点検評価、学生による授業評価、校長等による授業参観及びフィードバックにより授業の改善向上に努めた。 3) 適切な成績評価 単位認定、進級・卒業認定等の基準を定め、これに基づく適正評価に努めた。試験においては必要度・難易度から十分吟味した問題の作成に努めた。	2.4	新カリキュラムへの移行に伴い、教育内容の検討等に時間をかけて取り組んでいる。 職業教育の観点から、できるだけ早期から職業現場における体験学習を行うことは教育的効果が高いと考える。学習者の振り返りを含め、さらに充実させてほしい。 授業の質向上について、教職員間でディスカッションの場を定期的に設けるなどの取り組みを期待する。

<p>3. 教育活動</p>	<p>4) 教職員の資質向上 学園研修会の実施や関係団体における教員研修会、学会および各種セミナー等に参加し、資質向上に努めた。</p> <p>5) その他の教育活動 東洋療法学校協会主催の第40回学術大会に参加、学生の研究発表および論文作成等の指導に努めた。</p> <p>球技大会、ゼミ等の実施により、学生間や学生・教員間のコミュニケーションが図られた。また、学園祭では学生によるボランティア施術が行われ、日頃の練習成果を発揮する機会となり、奉仕の精神の発揚、市民との交流を図ることができた。</p>		<p>各教職員が研修会などへの参加を通じ自己研鑽に努めている。</p> <p>高大接続システム改革が進む中、高校教育においては課題探求学習が定着しつつある。高専接続の観点から、学生による課題探求学習を充実させ、その成果を発表する場を設けるなどの取り組みを期待したい。</p> <p>また、市民との交流を図りつつ、市民に育ててもらおうという視点での教育プログラムを求めたい。</p>
<p>4. 学修成果</p>	<p>進級率・卒業率の維持向上のため、面談による問題発見・助言に努めた。また、放課後や夏休み期間等に補習授業に努めたが、当年度は、健康上の問題、進路変更、経済的問題、成績不振等の理由で12名の退学者があった。</p> <p>年間を通じて国家試験対策授業を実施、合格率向上に努めた。その成果もあり、あん摩マッサージ指圧師100%、はり師91.7%、きゅう師94.4%であった。あま指師は目標の100%を達成、はり師きゅう師は昨年度に比べ大きく向上した。</p> <p>(公社)東洋療法学校協会による実技評価を受け、受験者全員が合格した。</p> <p>日体協公認アスレティックトレーナー平成30年度理論試験に2名が合格した。</p>	<p>2.2</p>	<p>中途退学者の防止について、様々な取り組みがなされているが、今後はさらに学生本人や家族とのコミュニケーションを重ねるなど、成果に結びつくよう努力を求めたい。</p> <p>国家試験合格率向上への様々な取り組みが行われている。一定の成果が表れているが、100%達成に向けてさらなる努力を求めたい。</p>
<p>5. 学生支援</p>	<p>1) 進路相談</p> <p>① 外部企業から講師を招聘し、3年生対象の就職セミナー(マナー、履歴書の書き方、職場訪問の仕方など)を実施した。</p> <p>② 今年度で12年目となる就職ガイダンスを開催した。全体で38事業所の参加があり、県別では、静岡県18、神奈川県5、東京都6、埼玉1、愛知県3、京都2、大阪2、福岡1であっ</p>		<p>就職先企業等との接続は職業教育機関として重要なポイントであり、様々な取り組みがなされている。今後、引き続き就職支援に努めることを求める。</p>

<p>5. 学生支援</p>	<p>た。90%以上が前回以前にも参加経験があり、現在卒業生が在職中の事業所は50%であった。</p> <p>③ 担当者による個別相談を行った。</p> <p>2) 健康管理 学校保健安全法に基づき、学生および教職員の健康診断を実施した。インフルエンザ等感染症予防の衛生教育、カウンセリング等に努めた。B型肝炎予防接種を実施、実習および将来の業務による感染防止に努めた。トレーニングルームを学生に開放し、健康づくりの推進に努めた</p> <p>3) 生活相談 ① 日本学生支援機構奨学金関する相談、貸与申請手続きなどの支援に努めた。また、期限までに納付困難な学生に対し、分割納付を助言、指導した。 ② 校友会奨学金制度に基づき、対象学生に給付した。 ③ 臨床心理士による学生相談を実施、学習や生活についてのサポートに努めた。</p> <p>4) 卒後教育 付帯教育である卒後臨床専攻コースに7名が進み、研修を修了した。校友会研修会、鍼灸臨床セミナー等を実施し、卒後のキャリアアップを支援した。</p>	<p>2.6</p>	<p>健康教育や健診など、学生及び教職員の健康管理に努めている。健康増進法が改正され、学校の敷地内は全面禁煙となるため、その対応が求められる。 今後も、身体的、精神的、社会的な面から健康管理に努めることを求めたい。</p> <p>卒後研修の制度があり、教育に取り組んでいることを高く評価する。今後の継続と充実を望む。</p>
<p>6. 教育環境</p>	<p>1) 施設・設備の構造・面積等を法令に準拠している。 当年度は、新しい非常用放送設備を整備した。併せて自動火災報知機のバッテリー交換も行った。</p> <p>2) 学生の学習環境向上のため、教材等の充実を図った。当年度は全身骨格模型を4体新規に購入、各学年教室、実技実習室へ設置した。</p> <p>3) その他、教具・図書等の充実を努めた。 各階に防犯カメラを設置、防犯・安全対策に努めている。</p>	<p>2.6</p>	<p>安心、安全な教育環境の整備に努力している。 今後も、大地震等災害への備えに対する点検・整備を求める。</p> <p>アクティブラーニングを推進するために必要な教材・教具の充実に、今後さらに努めてほしい。</p>

7. 学生募集および受け入れ	<p>アドミッションポリシー及び学生募集要項に基づき、適正に実施している。</p> <p>1) 本校の情報を、適宜学校ホームページやSNS等で発信した。</p> <p>2) オープンキャンパス、夜間学校説明会を開催し、本校の魅力発信に努めた。</p> <p>3) 業者発行のガイドブックやHP、駅看板、ラジオ広告等を利用し、学校案内請求数やオープンキャンパス参加者を増やすよう努めた。</p> <p>4) 業者主催による進学相談会に積極的に参加し、高校生や受験希望者と直接コミュニケーションをとることで、適正な情報提供に努めている。本年度は、神奈川東部（横浜エリア）から静岡西部（掛川エリア）まで幅広く活動を行った。</p>	3.0	<p>SNSの活用、および、主に社会人向けの夜間説明会等を実施し、学園の情報発信に努力している。こうした成果が学生募集に反映されている。</p> <p>2020年4月より、高等教育の負担軽減新制度が始まるので、新制度が有効に活用されるよう努力を求める。</p>
8. 財務	<p>健全な財務状況の保持と情報公開に努めている。</p> <p>予算、収支計画は有効かつ妥当なものとなっている。平成30年度は特に大きな事業はなかったが、教材、設備の整備に予算を費やしたため、支出が収入を上回る状況となった。会計監査は適正に実施されている。</p>	2.6	<p>健全な財務状況の保持と情報公開に努めている。</p> <p>引き続き、努力することを求める。</p>
9. 法令等の遵守	<p>専修学校設置基準、職業実践専門課程の規程、養成施設認定規則および同指導ガイドライン等の法令を遵守している。</p> <p>前年度の学校運営について学校関係者評価を実施、その結果を公開した。</p>	3.0	<p>関係法令を遵守し、関係団体の倫理規定等に基づいた学校運営が行われている。</p>
10. 社会貢献・地域貢献	<p>施術所の運営を通じて、市民の保健衛生の向上に寄与した。</p> <p>熱海市社会福祉協議会主催の福祉まつりに参加し、来場者に対し施術を実施した。また、地域の医師と連携し、在宅医療に取り組んだ。卒後研修制度において優秀な人材育成に取り組んでいる。</p> <p>国民体育大会やマラソン、サッカー、自転車競技などのスポーツイベントにおけるトレーナー活動・ボランティア活動に参加し、貢献することができた。</p> <p>地域中学生の職場体験を受け入れ、職業講話やトレーナー体験を行い、職業教育機関としての役割を果たすことができた。</p> <p>業団体、市体育協会等と連携し、地域の健康・スポーツのイベントに参加した。</p>	2.8	<p>行政や関係諸団体と連携しながら様々な取り組みがなされており、地域の保健医療福祉の分野における貢献度は高く、教職員の努力を高く評価する。</p> <p>職業教育機関として、職場体験などを通じて小・中学生等の職業観の醸成などに貢献している。</p> <p>引き続き、地域への貢献を期待する。</p>

東海医療学園専門学校 学校関係者評価委員会

日 時 令和元年5月16日（木）16：00～18：00

場 所 東海医療学園専門学校会議室

出席者 学校関係者評価委員会

委員長 矢田 真樹 （校友会副会長・静岡県鍼灸学術研究会会長）
〃 齊藤恭二郎 （公益社団法人静岡県鍼灸マッサージ師会会長）
〃 中村 聡 （静岡県保険鍼灸マッサージ師会会長）
〃 井出 啓之 （とがみえん児童クラブ理事長）
〃 澁谷 哲平 （校友会副会長）

教職員 杉山 誠一 （校 長）
〃 城 茂高 （事務長）
〃 臼井 明宏 （教務課長）
〃 太田 一郎 （臨床センター長）
〃 金川小百合 （AT コース長）